

報道資料

令和7年(2025年)11月5日

報道機関各位

教育委員会生涯学習部スポーツ振興課長

東京2020パラリンピック車いすバスケットボール日本代表  
北間 優衣(きたま ゆい)選手 市長表敬訪問について

このことについて、令和7年11月8日(土)に函館アリーナで開催される「日本生命バスケットボール体験会」に参加する北間 優衣選手が、下記のとおり市長を表敬訪問しますので、取材および報道につきましてどうぞよろしくお願いいたします。

記

1. 日時 令和7年11月7日(金)15時30分～
2. 場所 函館市役所 6階市長会議室
3. 来訪者 北間 優衣 選手 ほか
4. その他 11月8日(土)10:30～函館アリーナ(サブアリーナ)で開催される「日本生命バスケットボール体験会」についても取材・報道よろしく願いいたします。

【お問い合わせ】

教育委員会生涯学習部スポーツ振興課  
池上 (TEL: 21-3474)

## 北間選手について

### ■プロフィール

- ・1994年 兵庫県伊丹市出身
- ・先天性の二分脊椎症で生まれてから歩くことができず3歳から車いすを使用
- ・小学校～大学まで養護学校ではなく一般の学校に通う
- ・小学校では先生や同級生が『どうすれば北間さんが一緒にできるか』と、車いすの北間さんでも一緒に参加できるように『北間ルール』を考えてくれ、体育等も全てに出席。当時から運動することが大好きだった。
- ・中学に進学、中学は全員がクラブ活動に参加することが必須で、小学生の頃から好きだったバスケットボール部に入部。部活は車いすでは周りにケガをさせる可能性もあり、すべての練習に参加することができずマネージャー業も兼務した。同級生達が上達していくのを見ながら次第に『自分も本気でバスケットボールに打ち込みたい』という思いが強くなる。
- ・2007年（中学1年）その思いを察した中学のバスケットボール部顧問が車いすバスケットボールを紹介。すぐに地元のクラブチームである伊丹スーパーフェニックスの見学へ。車いすの激しいぶつかり合いに怖さを感じたがそれ以上に『自分もやりたい！』という思いが強くなり、すぐに入部を決断。
- ・2007年大阪・京都を拠点に活動する女子車いすバスケットボール強豪チーム『カクテル』に入部。
- ・ポジションはガード。持ち点<sup>※</sup>1.0のローポインター。  
高いバスケットボールセンスと判断力でハイポインターにゴール下への道のりをつくる“影の仕事人”  
※持ち点：障がいの程度が違う中でも各チームが平等に試合ができるよう、障がいのレベルによるクラス分け制度がある。  
障がいのレベルが重い順から1.0～4.5の持ち点が定められ、コート上の5人の持ち点合計が14点を超えてはいけない。
- ・2009年日本代表候補の強化合宿に召集され、2010年アジアパラ競技大会（中国）で代表デビュー。
- ・2017年日本生命入社

### ■日本生命での勤務状況

- ・入社～2021年のパラ出場までは日本代表としての活動を優先するため週2日程度出勤しての勤務  
残りの3日間は練習・試合出場等パラアスリートとして活動
- ・東京パラ終了後の2022年以降は日本代表としての活動を一旦お休みとした為週5勤務に変更  
《現在の担当職務》
  - －育成班でのエリア業務職研修運営のロジ関係
  - －車いすバスケットボール・D E & I 推進活動

### ■女子車いすバスケットボールチーム『カクテル』について

- ・カクテルは大阪・京都を拠点に活動する強豪チーム。
- ・毎年神戸で開催される皇后杯全日本女子車いすバスケットボール選手大会（前：全日本女子車いすバスケットボール選手権大会）では2014年から9連覇中。
- ・2022年よりキャプテンを務める。
- ・カクテルは現在まで北間を含め日本代表選手を多く輩出  
〔現役日本代表選手〕柳本あまね(2.5)、網本麻里(4.5)、北田千尋(4.5)、青山結依(1.0)、藤原芽花(3.0)、  
西村 葵(1.5)、小島 瑠莉(2.5)の7名  
※()カッコ内は持ち点

・カクテル試合における北間の個人賞受賞歴

- 2017年 日本女子車いすバスケットボール選手権大会（現：皇后杯）個人賞MVP
- 2018年:皇后杯 BEST 5
- 2022年：皇后杯 BEST 5

■日本代表としての活動

- ・2009年に日本代表候補の強化合宿に召集され、2010年アジアパラ競技大会（中国）で代表デビュー。以降海外遠征の常連メンバーに。
- ・2011年韓国で開催されたロンドンパラリンピックのアジアオセアニア予選のメンバーに抜擢。当時格下だった中国にまさかの逆転負け、パラリンピックの出場を逃す。北間が日本代表としての決意を新たにした大会であった。
- ・2016年リオデジャネイロパラリンピックの出場を逃し、2020年東京大会は北間にとって念願のパラリンピック大会。
- ・日本代表としての主な大会出場歴
  - 2010年 広州 2010 アジア競技大会（金メダル）
  - 2011年 ロンドンパラリンピック予選大会
  - 2014年 トロント女子世界選手権
  - 2015年 リオデジャネイロパラリンピック予選大会
  - 2018年 ジャカルタ 2018 アジア競技大会（銀メダル）
  - 2021年 東京 2020 パラリンピック
  - 2022年以降 東京 2020 パラリンピックを機に第一線を退く

■東京 2020 パラリンピック大会

- ✓ 北間はパラリンピック初出場、女子日本代表は3大会ぶりに出場。
- ✓ 全6試合（予選4試合、決勝T2試合）で先発出場し、高さのある相手選手にも果敢に攻め、味方を活かすプレーで大いに活躍。
- ✓ 女子日本代表は、リオパラリンピック4位の強豪国イギリスに勝利し、見事決勝トーナメントに進出。準々決勝では、今大会金メダルのオランダに敗戦、5-6位決定戦ではカナダに敗戦し、最終6位入賞。

